

予 算 審 査 特 別 委 員 会 記 録

令 和 7 年 2 月 25 日（火）午 後 3 時 30 分 開 議

○審査日程

- 1 議案自第10号至第27号分科会報告、意見表明、採決

○出席委員

石 川 美 香 君	吉 川 英 二 君
茂 呂 一 弘 君	岳 田 雄 亮 君
須 藤 博 文 君	岡 崎 純 子 君
黒 澤 和 泉 君	野 島 友 介 君
山 崎 真 彦 君	大 平 真 弘 君
渡 邊 惟 大 君	桜 井 秀 夫 君
青 山 雅 紀 君	伊 藤 隆 広 君
前 田 健 一 郎 君	石 川 弘 君
小 坂 さ と み 君	三 井 美 和 香 君
渡 辺 忍 君	安 喰 初 美 君
梶 澤 洋 平 君	守 屋 聡 君
蛭 田 浩 文 君	伊 藤 康 平 君
阿 部 智 君	松 坂 吉 則 君
植 草 毅 君	岩 井 雅 夫 君
亀 井 琢 磨 君	田 畑 直 子 君
川 合 隆 史 君	麻 生 紀 雄 君
段 木 和 彦 君	佐々木 友 樹 君
盛 田 眞 弓 君	櫻 井 崇 君
森 山 和 博 君	酒 井 伸 二 君
小 松 崎 文 嘉 君	向 後 保 雄 君
宇 留 間 又 衛 門 君	中 島 賢 治 君
三 須 和 夫 君	石 井 茂 隆 君
米 持 克 彦 君	石 橋 毅 君
白 鳥 誠 君	三 瓶 輝 枝 君
中 村 公 江 君	野 本 信 正 君

○説明員

市 長	神 谷 俊 一 君	副 市 長	大 木 正 人 君
副 市 長	橋 本 直 明 君	総合政策局長	峯 村 政 道 君
総 務 局 長	大 野 和 広 君	財 政 局 長	山 元 隆 司 君

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年予算審査特別委員会記録（2月25日）

市民局長	那 須 一 恵 君	保健福祉局長	今 泉 雅 子 君
こども未来局長	大 町 克 己 君	環 境 局 長	宮 本 寿 正 君
経済農政局長	藤 代 真 史 君	都 市 局 長	鹿子木 靖 君
建設局長	山 口 浩 正 君	消 防 局 長	白 井 一 広 君
水道局長	勝 瀬 光一郎 君	会 計 管 理 者	折 原 亮 君
病院局次長	橋 本 欣 哉 君	市 長 公 室 長	西 公 厚 君
総 務 部 長	中 尾 嘉 之 君	教 育 長	鶴 岡 克 彦 君
教 育 次 長	秋 幡 浩 明 君	選挙管理委員会 委 員 長	大 野 雄 子 君
人 事 委 員 会 事 務 局 長	桑 本 茂 樹 君	農業委員会会長	長谷部 衡 平 君
代表監査委員	宍 倉 輝 雄 君		

○議会事務局

事務局 長	久 我 千 晶 君	次 長	寺 崎 勝 宣 君
議 事 課 長	安 西 雅 樹 君	議事課長補佐	木 下 哲 央 君
議 事 班 主 査	石 黒 薫 子 君		

午 後 3 時 30 分 開 議

○委員長（向後保雄君） ただいまから予算審査特別委員会を開きます。

出席委員は50名、委員会は成立いたしております。

本日の審査日程につきましては、お手元に配付のとおりでございます。

なお、12日の予算審査特別委員会における私の就任挨拶について発言の一部を取り消したいと存じますので、御了承願います。

議案自第10号至第27号分科会報告、意見表明、採決

○委員長（向後保雄君） それでは議案第10号から第27号までの18議案について、分科会報告、意見表明、採決を行います。

分科会報告につきましては、お手元に配付のとおりでございます。

分科会報告を添付

○委員長（向後保雄君） 意見表明の通告がまいっておりますので、通告順に従いお願いいたします。酒井伸二委員。

○委員（酒井伸二君） 公明党千葉市議会議員団を代表して、令和7年度予算案に対して賛成の立場から意見表明を行います。

新年度予算案の審議に当たっては、市長の提案理由の説明や我が会派の代表質疑に対する答弁、さらには予算審査特別委員会における審議などを通じ、各種施策を慎重に検討してまいり

ました。

その結果、新年度予算案は、厳しい収支見通しの中、歳入確保や歳出削減の取組を進めるとともに、国の地方財政対策を適切に反映させたほか、なお不足する収支の財源対策として、財政調整基金からの繰入れなどにより収支の均衡が図られたところであり、厳しい財政状況の下での予算編成でありました。

しかしながら、国の補正予算を活用して2月補正と連動した予算編成とし、防災・減災対策の強化や少子超高齢社会の進展を踏まえた医療・介護施策、未来を担うこども・若者支援、学びを支える教育環境の充実や、持続可能な公共交通ネットワークの構築など、市民生活に密着した様々な施策が進められており、併せて脱炭素社会の実現、共生の社会づくりの推進、地域経済の新たな担い手の創出に向けた取組など、本市の特性を生かした未来志向の施策が展開されていることが確認できました。

また、基金からの借入れについても、一定の返済額を計上するなど、財源に限りのある中で、健全性に配慮されており、さらに、長引く物価高騰対策を含む、市民の意見や要望を集約した公明党千葉市議会議員団の、令和7年度予算編成に関しての要望に対する一定の取組も認められ、新年度予算案を評価すべきものと判断いたしました。

引き続き厳しい財政状況が続く中、少子超高齢社会の進展を見据えつつ、一層の市民福祉の向上とともに、みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市の実現に向け、全力で取り組まれるよう要望し、公明党千葉市議会議員団の意見表明といたします。

○委員長（向後保雄君） 守屋聡委員。

○委員（守屋 聡君） 日本維新の会ちばの守屋聡でございます。

会派を代表いたしまして、令和7年度予算議案に対して賛成の立場から意見表明を行います。

今回、提案されました予算議案につきましては、市長の提案理由の説明や予算審査特別委員会における分科会での審議を通じまして、会派において慎重かつ詳細な検討を行いました。

予算額は一般会計5,512億円、特別会計4,597億500万円で、総額1兆109億500万円と過去最大の予算規模となりました。

歳入は、市税が給与所得の増加に伴い個人市民税が堅調であることなどから、増額になるものの、歳出では扶助費の増額や物価高騰、賃金の上昇などに加え、新清掃工場や新病院、若葉住宅地区の小学校の新設など歳入を上回る厳しい財政状況であります。

そのような限られた財源の中で、新年度予算は、子育て、教育、医療介護、環境防災など都市づくりを中心に市民生活の向上に向けた本市の発展につながる施策に重点的に予算を配分されました。

また、事業費の精査を行いながら、事業の着実な推進を図るなど財政健全性に配慮した取組は、大いに評価をするところであります。

しかしながら、財政調整基金の取り崩しによる残高の減少や基金借入金の返済など、将来に不安を残す財政状況であることは強く意識すべきと考えます。

我が会派としては、予算執行が適切に行われるよう注視し、市政運営については是々非々の態度で臨んでまいります。引き続き千葉市が魅力ある選ばれる都市となるよう、市長をはじめ執行部の皆様とともに邁進していく所存であります。

以上で、日本維新の会ちばを代表しての意見表明といたします。御清聴ありがとうございます。

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年予算審査特別委員会記録（2月25日）

○委員長（向後保雄君） 安喰初美委員。

○委員（安喰初美君） 日本共産党千葉市議会議員団を代表して、2025年度予算案に反対の立場から意見表明を行います。

反対の第1の理由は、物価高騰で市民を支援する予算が痛切に求められているときに、地方自治の本旨である、住民福祉の増進を図ることに反して、国民健康保険料値上げなど福祉カットを強行するとともに、子育て支援のために学校給食の無償化を求める声には背を向け、国が行うべきだと切り捨てる等、市民に冷たい予算であることです。

第2の理由は、市民生活などに緊急の必要性が生じたときに活用する財政調整基金を69億円も取り崩しているにもかかわらず、急がなくて良い事業や、必要性の乏しい事業などの大型開発に多額の予算をつぎ込んでいることです。また、企業立地の予算は21億円にも膨れ上がっており、優先順位の考え方が大企業優先になっていることも問題であります。

第3の理由は、大軍拡、国民生活切り下げの石破政権に無批判の姿勢についてです。国政との関係で石破政権は能登半島支援より、軍事費を優先して8兆7,005億円を投入する等、税金の使い方に問題があり、国民要望実現のために、選択的夫婦別姓の導入、学校給食の無償化、学費値上げ中止、マイナ保険証強制をやめ現行の保険証を存続、消費税減税、企業団体献金の禁止を進めるべきであると市長の見解を求めました。ところが市長は国会において議論すべきものであり、その動向を注視していくと答え、市民の切実な要望実現を国政に求めている立場は全くなく、石破政権に無批判、追従するような姿勢を厳しく指摘するものです。

以上、急ぐ必要がなく事業効果も乏しい大型開発や企業立地に偏重した予算配分などを見直し、市民が切実に望んでいる物価高騰対策や地域経済活性化のための中小企業支援、学校給食無償化の実現、頻発する災害への備えとしても有効な学校体育館へのエアコンの整備を急ぐこと、さらには、高齢者が元気に外出できる外出応援制度の創設などに予算を振り向けることが必要です。市民の生活実態に心を寄せ、国言いなりではない施策に取組、誰1人取り残されない千葉市をつくるための予算となるよう求め、会派を代表しての意見表明といたします。

○委員長（向後保雄君） 須藤博文委員。

○委員（須藤博文君） はい、議長。自由民主党千葉市議会議員団の須藤博文でございます。

会派を代表いたしまして、令和7年度の予算議案に賛成の立場から、意見表明を申し上げます。

今回提案されております新年度予算につきましては、市長の提案理由説明、代表質疑に対する答弁、さらに、予算審査特別委員会における分科会での審議等を通じまして、どのような施策が盛り込まれたのかなどを、慎重かつ詳細に検討してまいりました。

その結果、令和7年度予算の主な取組として、本年3月に市長選挙を控える中でも、市民生活に密接に関連した行政サービスは、水準を落とすことなく切れ目なく実施する必要があることにより、継続的に取り組んでいる新清掃工場整備や、喫緊で取り組まなければならない施策である保育士の処遇改善や児童虐待防止対策の強化などを盛り込むなど、地域を守り、未来を創る予算を編成され、特に重点化した分野では、子育て支援・教育政策のさらなる推進、持続可能で魅力あるまちづくりの推進と都市基盤の充実強化、千葉開府900年に向けた取組などが確認できました。

また、国の補正予算に呼応し、一部の事業を令和6年度補正予算に前倒ししながら、切れ目のない対策を実施するとともに、中小企業者への事業継続のための支援金など、地方創生臨時

交付金を活用した本市独自の物価高騰対策も併せて計上するなど、市民の皆様の要望に応える施策がおおむね盛り込まれていることが確認できました。

しかしながら、69億円の財政調整基金の取り崩しがあるなど、財政課題はいまだあることから、今後も健全な財政運営に向けた取組が必要な状況にあります。

引き続き、物価高騰に加え、少子・高齢化や公共施設の老朽化対策など、多額の財政需要が見込まれますが、健全な財政運営に向けた取組を着実に推進するとともに、都市の活力の向上及び市民の皆様方のより豊かな暮らしの実現に向けて努力されるようお願いいたしまして、自由民主党千葉市議会議員団の意見表明といたします。

○委員長（向後保雄君） 岡崎純子委員。

○委員（岡崎純子君） 立憲民主・無所属千葉市議会議員団の岡崎純子でございます。会派を代表いたしまして、令和7年度予算に対し、賛成の立場から意見表明を行います。このたび提案された予算議案については、代表質疑や分科会を通し、会派において慎重かつ詳細に審議してまいりました。

一般会計では新清掃工場整備など必要経費が存分に見込まれ、特別会計においては、このうち企業会計4種において地域医療体制と連携の強化、大規模地震に備えた上下水道インフラ強化、農業集落排水施設整備促進が組み込まれ、保健事業においては、本市人口動態を鑑み、少子・高齢化に対応したものであると読み取れます。

また、整備等建設事業のピークを迎えることによる建設事業債発行増などにより、全会計における予算規模総額は前年度比6.1%増となりつつ、基金借入金返済を5億円計上され、臨時財政対策債の発行を制度創設以来、初めてゼロとされるなど、財政健全性維持の視点から、バランスを考慮した予算編成であると考えられます。各施策に関しては、まず大都市ならではのインフラ需要に応えた、都市基盤強化の一環として、道路ネットワーク整備、地域公共交通の維持確保を図り、中心市街地再生・活性化など、開府900年を控えた本市のブランド構築に、一層資する姿勢がうかがえます。

防災においては、災害に対するアセスメントとして平成28年度以来となる地震被害想定調査を9年ぶりに行われる意義は大きいと思われ、また、防犯においてはカメラ設置が急ピッチで進み、本市全ての公立小中学校への設置完了が見込まれるほか、主要駅周辺への追加設置や自治会への設置助成など大幅拡充がなされ、市民の生命に直結した取組が行われていると感じます。

子育て支援・教育分野に関しては、新東部児童相談所などで構成される複合施設整備に向けた取組のほか、GIGAスクール構想に向けた環境整備として、可能性広がる新端末が導入され、また、不登校児童への支援においては、各種スクールカウンセラーの人員配置の拡充がされ、効果が期待されます。産業振興に関しては、観光客誘致に向けた本市周遊ツアーの企画が、本市の観光ポテンシャルを大いに開放すると思われ、昨今のデジタル人材枯渇に当たっては、新たにデジタル活用推進の事業債発行を可能とし、自治体のDX取組加速も、見込まれます。

以上を総合的に勘案し、令和7年度予算案に対し、改めて賛意を表し、立憲民主・無所属千葉市議会議員団を代表しての意見表明といたします。

○委員長（向後保雄君） 以上で意見表明を終わります。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案のうち、第12号から第15号まで、第17号、第18号、第20号から第22号まで及び第24号から第26号までの12議案を原案どおり決する

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年予算審査特別委員会記録（2月25日）

ことに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（向後保雄君） 御異議ないものと認め、原案どおり可決されました。

続いて、電子採決システムにより採決いたします。

お諮りいたします。議案第11号、第16号、第23号及び第27号の4議案を原案どおり決することに賛成または反対のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタン押下〕

○委員長（向後保雄君） 押し間違いはございませんか。

ないものと認め、確定いたします。

採決の結果を申し上げます。賛成多数であります。よって、原案どおり可決されました。

続いてお諮りいたします。議案第10号及び第19号の2議案を原案どおり決することに賛成または反対のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタン押下〕

○委員長（向後保雄君） 押し間違いはありませんか。

ないものと認め、確定いたします。

採決の結果を申し上げます。賛成多数であります。よって、原案どおり可決されました。

以上をもちまして、予算審査特別委員会を終了いたします。

長時間、慎重審査、ありがとうございました。

午 後 3 時 48 分 散 会

千葉市議会委員会条例第29条の規定により署名する。

予算審査特別委員長 向 後 保 雄